Q7　地域の方と関わる行事について今後に望むこと

【一部抜粋】

・今後も地域の方と交流する行事は継続してほしい。
・地域をより良くするため自分にできることを考えてみたい。
・考えるだけでなく実際に自分たちが主催して地域を盛り上げるイベントを行ってみたい。

考察

・質問１～５では、全て100％近い達成率でした。学校支援事業が有意義に実施されていることが伺えました。
・質問６では、地域の方々と楽しく交流した感想が多かったです。交流しながら地域の良さを再発見したり地域の方々の思いを感じることができたようでした。
・質問７では、地域の一員として自分にできることには協力していきたいとの感想が多かったです。また、いっしょに野菜を収穫したり地域を盛り上げるイベントを開催したり、具体的で前向きな意見もありました。

小学校でプログラミング

湖北小学校

今、各小学校ではプログラミングの授業が行われています。湖北小では理科の授業でプログラミングを取り入れました。講師は伊藤真比人さん（町教育委員会）が務めました。プログラミングや基本的な操作の説明を受けた後、活動に入りました。電気実験では手をかざすと豆電球が点く命令を与え、実際に点灯すると歓声があがりました。ロボットモードでは電車が近づくと遮断機が下りる命令を与え、実際の動きを笑顔で確認していました。田森啓太さんは「自分で考えた命令通りに動いたときは面白かった。いろんなことに応用できると思った。」松川達貴さんは「人が通ると灯りが点く時があり不思議だったけど今日の勉強で仕組みがわかった。」と話しました。

杉の子読書会

下岩川小学校

下岩川小学校で今年度最後の読み聞かせが行われ地域の皆さんも協力しました。低学年担当の藤原トモ子さんは「つる女房」の挿し絵を見せながら読む速さを変えたり強弱をつけたり感情豊かに読み聞かせていました。渡部志真さん（１年）は「女の人と見ちゃだめと約束したのに男の人が見てしまっていじわるだと思った。」岡裕佳さん（３年）は「つるの恩返しに似ていておもしろいお話でした。」と感想を話しました。最後に今までたくさん本を読んでもらった感謝の気持ちを込めて花をプレゼントしました。藤原さんは子どもたちに「いつも楽しみに聞いてくれて嬉しかった。皆さんと関わることができて楽しかった。今後の活躍を期待しています。」と話しました。高学年を担当した近藤きぬ子さんは、今年度を振り返り「子どもたちの感想がとても立派になったと感じている。内容をしっかり理解して自分の考えをまとめながら発表できる姿に成長を感じている。やってきた甲斐があった。」と嬉しそうに話しました。

編集後記

学校支援事業アンケートを集計して各校とも地域の方々と楽しく交流していたことが伺えました。ただ新型コロナの影響で中止した行事もあったので、来年度こそは様々な学校支援事業が通常通り行われることを願っています。

先月号の琴丘中学校の記事で氏名の間違いがありました。訂正してお詫びいたします。

誤　金　覇亜人さん
正　金　覇亜斗さん